



ひまわり



桶川市青少年健全育成市民会議

第 38 号

平成27年1月1日（年1回発行）

発行 桶川市青少年健全育成市民会議

編集 青少年健全育成市民会議

広報発行委員会

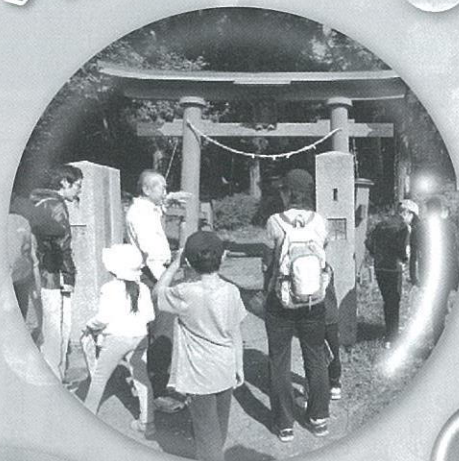
事務局 桶川市教育委員会生涯学習文化財課

☎ 786-3211

✉ shogai @ city.okegawa.lg.jp



笑顔いっぱい。



楽しかったね。



親子ふれあいウォーク（加納地区10月11日 川田谷地区10月25日）

非行防止街頭キャンペーン

7月9日（水）、午後6時から7時まで桶川駅周辺で、非行防止街頭キャンペーンが行われました。激しい雨が降る中でしたが、たくさんの構成団体が集まり、盛大に開催されました。



市民まつり 非行防止キャンペーン

11月3日（月）、さわやかな秋空の下、市民まつりが開催されました。当市民会議構成団体及び関係者方々によって今年も桶川小学校、中山道において市民の皆様へ風船やリーフレットを配りながら青少年の非行防止を訴えました。（河）



桶川市青少年健全育成 市民会議総会

五月十七日（土）、桶川東公民館大ホールにて、平成二十六年度桶川市青少年健全育成市民会議総会が行われました。

総会後には、「少年非行の現状と豊かな心を育む生活」と題して、保護司・古武道長谷川流和術 第十七代宗家桑原巡さんに講演をしていただきました。講演の中では、江戸時代の罪の重さや、今の子供たちを取りまく環境、家族の在り方、役割などについてお話いただきました。（小）



市民大会にて講演会が行われました

子どもたちの健全育成のための 大人の役割とあり方

～たくましく生きる力を
培ってあげるために～

子育てと人権教育研究室 室長 関根トミ子さん



「自分の子供が世界で一番だと思うこと、それは子育ての原点です。今日の講演で伝えたいことは、①親子のきずな、②子育てとは？、③たくましい子に育てるには？の三点です。」関根先生自身も四人のお子さんの母であり、保護司や民生委員、児童委員をする中で失敗した経験や子供たちに寄り添ってきたことなどを、多くの事例をあげて話してくださいました。

親が子供を思う以上に、子供は親のことを思っている、子供にとって親は最高の存在です。小さな子が一番言うのは「抱っこして！」という言葉です。この言葉は、かまってくれたいという表れですが、これは一番信頼している人に甘える、ということとです。この『甘える』ことが心の育成につながり、人として大切である、と先生は述べられています。

また、先生は、子育てとは自立させることだと考え、人として正しい判断ができること、責任ある行動がとれること、たくましく生きる力をつけることを目標に、たくさんの子供たちと関わってこられました。では、どうしたら『たくましい力』が培われるか？それは自分を愛してくれる人、自分を応援してくれる人、自分を守ってくれる人、自分を必要としてくれる人がいる、つまり『愛され感』で満たされることが必要だそうです。それと同時に、経験や体

験がとても大切で、やったことがあるという経験をもつことで、たくさんハードルをこえられる力になる、つまりはこれもたくましい力を育むということにつながるのだと述べられました。

わが子には、自分の意見を言える人になってほしいと願うのに、親の気に入らないことをすると反抗だという、これは上からの目線です。「こうしたい」という思い（自我）は二歳の子でも持っている。どうしたいのかまず聞くこと、一度受け止めることが大事であり、子供の言う通りにする必要はありません。対等に話し合えばよいというお話に、なるほどと感心しました。

一番印象に残ったのは、「子供の幸せは子供の中にあり、子供が一番うれしいのは家族の笑顔です。」という言葉です。関根先生が会場にたくさんの子供たちに共通して見えることだったのでしょうか。講演会が終わるころには、参加者もみな笑顔になっていました。（西）

講師のプロフィール

中学校の教諭として勤め、結婚を機に退職。その後四人の子育てをしながらPTAや育成会活動に力を入れた。また、埼玉県青少年健全育成審議会委員、保護司等多数を歴任し、現在子育てと人権教育研究室室長。

この広報誌はなぜ 「ひまわり」 っていうの…？

広報『ひまわり』は、平成4年発行の第4号で命名されました。（以前は『青少年健全育成市民会議』）

青少年がいつも太陽に向かい、明るい笑顔で明日をめざし、限りなく前進を続けるように……との願いがこめられています。



おけがわ春のふれあいフェスタ

五月十一日（日）、駅西口公園と桶川市民ホールにて、おけがわ春のふれあいフェスタが開催されました。ふれあいフェスタ実行委員と構成団体の皆様と会議を重ねてきたこのお祭りも、おかげさまで五回目を迎えました。

今年もかき氷が完売するほど、強い日差しの蒸暑い夏日となりました。市民ホールでは、市内の各中学校と高校による吹奏楽の演奏が行われました。一万五千人以上の皆様に参加していただき、会場は一日中大盛況でした。

毎年、進化し続ける春のふれあいフェスタ。次回、また多くの皆様にお会いできますように。（洪）



第二十七回
桶川市青少年健全育成市民大会

平成二十六年十一月二十二日（土）、桶川東公民館大ホールにおいて「第二十七回桶川市青少年健全育成市民大会」が開催されました。

開会行事に続き、子育てと人権教育研究室の室長として活動されている、関根トミ子先生による講演会がありました。

その後、「青少年育成功労賞」の表彰が行われ、さらに、市内の小・中学生が真摯に書き上げた「私たちの主張」作文コンクール及び「家庭の日」ポスターコンクールの表彰と作文コンクール優秀作品の朗読が行われました。

自らの子育てや生き方を改めて振り返る良いきっかけとなった講演と、子供たちの豊かな感性を感じる朗読を聞き、充実した大会となりました。（吉）

青少年育成功労賞、作文・ポスター



優秀賞

ボランティアについて
加納小学校六年 池野谷梨香

お祭の後は…
桶川小学校四年 倉持 結

ちゅう車場に注意して
日出谷小学校五年 浪江 優衣

平和への主張
桶川西中学校三年 小高 諒子

将来の夢
桶川西中学校二年 石川 寛己

ごみのポイ捨てについて
加納中学校二年 岩崎 結衣

「私たちの主張」作文コンクール入選者



優良賞

わたしたちが不自由な人のために
できること
桶川東小学校五年 並木舞也乃

がんばっていること
加納小学校四年 加藤 彩美

私のおばあちゃん
桶川西小学校五年 大畔 若菜

新しい夢を与えてくれた場所
加納中学校三年 田頭 舞

ルールを守る
桶川東中学校一年 鹿野なつ美

どんなに大変でも
桶川西中学校一年 池嶋 彩歌

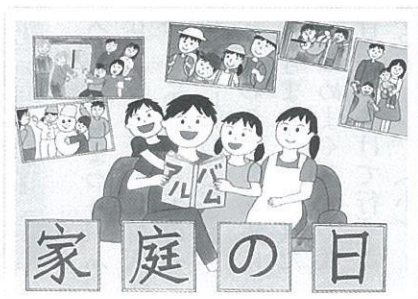
講評

作文については、環境、平和、まわりの人への感謝、相手を思いやる心に関することなど、自らの身近な体験をもとに、社会に広く目を向けた作文が多かったです。自分に出来ることが何なのかをしっかりと考えており、とても心強く感じました。

ポスターについては、丁寧に描かれ、色づかいも明るく、表情豊かな作品が多いことが印象的でした。何を伝えたいのか、しっかりとしたテーマを持って描かれた作品も多かったです。(小)

「家庭の日」ポスターコンクール

優秀賞作品



加納中学校 2年 岩崎 結衣
「家庭の日」



桶川東小学校 6年 松本 洸
「みんなで楽しいご飯作り」



桶川小学校 5年 吉田 陽菜
「家族っていいね!」



桶川東中学校 3年 舟木 優香
「家族団らん」



桶川東中学校 2年 武井 理央
「帰道」



日比谷小学校 5年 桑原 嘉悠
「みんな笑顔」

コンクール入選者が表彰されました

青少年育成功労賞表彰



●個人の部

桶川サッカースポーツ少年団 小山 伊庸

ガールスカウト埼玉県第47団 計良 真希

ボーイスカウト桶川第1団 前田耕太郎

桶川市子ども会育成連絡協議会 新谷 博恵

桶川合気道連盟 柳 光雄

桶川カーディナルススポーツ少年団 小森 敏博

日出谷スターズスポーツ少年団 窪田 雅雄

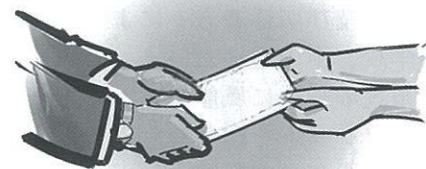
川田谷ベアーズスポーツ少年団 阿保 利明

桶川剣友会 松實 義明

●団体の部

桶川ライオンズクラブ

市民大会当日の市民会議表彰では、青少年の育成に顕著な功績のあった個人や団体に「青少年育成功労賞」が表彰されました。また、市内小・中学校の児童・生徒が夏休みに取り組んだ「私たちの主張」作文コンクールでは351点の、「家庭の日」ポスターコンクールでは238点の応募があり、それぞれ12点の入賞者の表彰も行われました。表彰された皆さんや作品を紹介します。(敬称略)



「家庭の日」ポスターコンクール入選者



優秀賞

家族っていいね!
桶川小学校五年 吉田 陽菜

みんな笑顔
日出谷小学校五年 桑原 嘉悠

みんなで楽しいご飯作り
桶川東小学校六年 松本 洸

優良賞

毎日会えたらうれしいな
桶川東小学校五年 岡野 真広

家族の絆
桶川小学校六年 齋藤 鍊

みんなで食べたスイカ
桶川小学校六年 佐藤 史

家庭の日
加納中学校一年 渡邊 珠由

夕日に照らされる後ろ姿
桶川東中学校一年 末廣 りさ

桶川東中学校一年 横村 翔真

帰道
桶川東中学校二年 武井 理央

家庭の日
加納中学校二年 岩崎 結衣

家族団らん
桶川東中学校三年 舟木 優香

十一月十八日(火)、平成二十六年度青少年育成埼玉県民会議の表彰式が行われ、桶川市青少年健全育成市民会議の構成団体である桶川サッカースポーツ少年団が青少年健全育成功労賞(団体)を受賞し、県民会議会長である上田知事から表彰された。なお、写真は同少年団会長代行の手塚良さんです。



青少年育成埼玉県民会議会長より表彰



ふれあいウォーク加納

平成二十六年十月十一日(土)、さわやかな秋晴れのもと、加納地区「親子ふれあいウォーク」が開催され、六十四名の参加者がウォーキングを楽しみました。

まずは第一チェックポイントである坂田氷川神社へ。するとそこには桶川市のマスコット「オケちゃん」が待っていて、一緒に記念撮影をしました。そして、後谷公園、後谷調整池、加納小学校でクイズに答えて、最終チェックポイントである坂田弁天公園で答え合わせをしてゴールを目指しました。参加者全員がチェックポイントを通過するのを待っていると寒く感じたのですが、歩いていれば汗ばむほどだったようです。田畑を抜け、圏央道をくぐりぬけ、約九キロの道のりをそれぞれどんな思いで歩いたのでしょうか。最後まで自分の足で歩き切ったみなさんの顔は、なんだか誇らしげに見えました。(西)



親子ふれあいウォーク



ふれあいウォーク川田谷

その二週間後の十月二十五日(土)には、川田谷地区のふれあいウォークが行われ、八十七名の参加者が農業センターに集まりました。午前八時五十五分にスタートし、柚子や畑の作物などを観察しつつ、八幡神社を目指します。八幡神社では地域の方から神社の由来を説明していただきました。その頃には暑さもピークになり、皆さん暑さと疲れとの戦いになりました。三田原では記念撮影を行い、泉福寺ではクイズに答え、青空の中向こう岸の飛行機を見ながら土手の上を歩きます。富士見ホテル親水公園でクイズの答え合わせを行い、最後の力を振り絞ってゴールに向かいます。ゴール地点では、子ども会の人たちが作ってくれたおいしい豚汁が待っていました。



加納小PTAの方々、子ども会育成連絡協議会の方々、地域の皆様、青少年相談員さん、ジュニアリーダーさん、ありがとうございました。(小)

ひまわりのつぶやき

★ふれあいフェスタや市民まつり、ふれあいウォークなどがごとく好天に恵まれたことからこのメンバーの心げの良さが分かりました。(新)

★今回初めて『ひまわり』の編集に参加させていただきました。子供たちを取り巻く環境はめまぐるしく変化しています。見守り続けて行くことが私達に出来る第一歩。(小)

★先日、末娘が二十歳の誕生日を迎え、感慨深い今日この頃。三人の子育てを通し、子供をひとりの人として尊重し、支配しないことが大切だと学びました。(吉)

★子供を守る―それは足元の石ころをどけて転ばないようにすることではない。転ぶ経験のほうが何より大切だと思う。(西)

編集後記

子供たちに将来への夢や目標を持たせて健全に育て上げることが、大人たちの責務です。

青少年健全育成市民会議では、本誌に掲載されたような様々な活動を通して、健やかな子供たちの育成に向けて努力しております。

「家庭でのしつけ」や「地域社会での安全」、「メディアなどからの

ついていた近隣住民のなんと多いことか。知っている人がこんなにいるのに、虐待を止めることはできなかったのか。(江)

★子供が成長し、戦車が格好いい、銃を持つてみたいと言われた時はショックでした。その一発で人の一生が終わるのだとわかっていて格好いい。そんな矛盾の中、平和のありがたさがわかっていて不安になる。(対)

★人は心配するから迷い、迷うから心配するの繰り返しです。まずは、相手の言うことを素直に受け入れ、信じるのが大事です。(洪)

★幼い子供たちの自殺、連れ去り、自然災害などで大切な命が簡単に失われていて、悲しいですね。未来ある子供たちには希望と自信を持って欲しいし、それを支えられる大人でありたいと思います。(河)

悪影響」など、私たちが取り組まなくてはならない課題は少なくありません。今後とも家庭と地域、そして学校が一体となった活動を推進し、青少年の健全育成につなげることができればと考えます。

子供たちは、地域社会そして我が国の希望であり、宝です。多くの皆様からたくさんのご協力を賜ることができそうです。よろしくお願い申し上げます。(新)